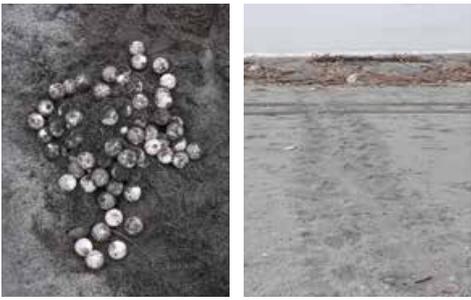


ウミガメ保護監視員の活動内容

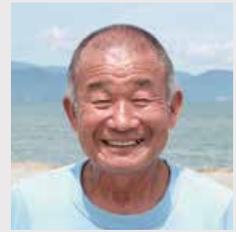
ウミガメの保護を目的に鹿児島県では、各市町村(一部)に『ウミガメ保護監視員』を設置しています。

本町でも2名の方が、ウミガメ保護監視員として活動されています。

監視員さんはウミガメの産卵シーズンになる5月から9月の間、毎朝5時頃から砂浜を見て回りウミガメの上陸・産卵状況を確認しています。そして、産卵を確認し、動物などに危険が及ぶと判断した場合は、安全な孵化場へ卵を移設し、ウミガメの保護を行っています。



【ウミガメの足跡と卵】



ウミガメ保護監視員
下野 明文 さん(71歳)

下野さんは、平成24年からウミガメ保護監視員を務め、今年で7年になります。

「ウミガメは幼少期のころからふれ合っていて、とても身近な存在です。」と素敵な笑顔で下野さんは話します。



ウミガメ保護監視員
春田 一樹 さん(39歳)

春田さんは、平成28年からウミガメ保護監視員を始め、今年で3年になります。

父親の仕事を継ぐために、愛知県から故郷大崎町へUターンした春田さん。そのとき、父親がウミガメ保護監視員をしていること

下野さんは大崎海岸から横瀬川河口までを担当し、毎朝5時から海岸を見回り卵があると安全な孵化場へ移設するときは1時間以上掛かることもあると教えていただき、監視員の仕事の大変さが伺えます。



を知り、父親の仕事と一緒に監視員も継ぎました。

「父の監視員としての姿に魅了されて継ぐことを決めました。」と明るく話す春田さん。

春田さんは大崎海岸から菱田川河口を担当しています。



ウミガメの現状を子どもたちに

ウミガメ保護監視員さんは日々の監視活動に加え、学校の要請に応じ、ウミガメについての講義を行っています。

大丸小学校では、校内の孵化場で卵を孵化し、子ガメを海に放流する体験活動を実施しています。その際、ウミガメの講師として保護監視員さんにお話しをしていただいています。

大崎中学校では、7月11日に『大崎学』と題して、1年生の生徒5名に対しウミガメの学習をし、保護監視員さんが講師を務めました。



いつまでもウミガメがくる砂浜でありたい

毎朝海岸で保護監視活動を行う2人は、ウミガメの状況だけではなく、海や砂浜の状況も見えています。

2人に近年の海や砂浜の状況を聞くと「流木や小枝などが多く打ち上げられています。プラスチックのごみも非常に多いと感じます。それと、砂浜自体が非常に狭くなったと思います。」と危機感を感じているそうです。

ウミガメは、砂浜を這うように産卵場所を探します。そのため、砂浜にごみが多いとそれ以上先へ進めず産卵を諦め海へ帰ってしまいます。

また、砂浜が狭くなると、うまく砂地を掘れず産卵することが難しくなり、結果ウミガメの減少に繋がってしまいます。

砂浜をキレイに保つことで、ウミガメがいつまでも訪れる砂浜となります。皆さんも、自身の出来る範囲で砂浜の環境美化やプラスチックごみの削減の取組みについてぜひ考えてみてはいかがでしょうか。